

歯っぴらいらいふ2024年9月号

あたらし歯科医院

歯科衛生士

栩木

誠子

まだまだ暑い日が続きますが、立秋を迎え季節は秋です。

今年の夏はいつもよりも厚くコロナや手足口病、RSウイルスなど感染症も流行致しました。

オリンピックでは日本人が大活躍しました。沢山のメダルが首にかけられ、笑顔や涙が印象的でした。

身体の小さな日本人が世界の人と肩を並べ戦えるようになりました。

大変誇らしく思います。また努力している姿は本当に素晴らしいなと思います

さて今月も歯っぴらいらいふをお届けします。

アッと驚かれると思いますが、寝たきりの人の微熱の原因の多くは歯周病菌が関係しているという話…

歯周病菌はもちろんの事口の中の免疫機能に役立つと言われる常在菌も身体の抵抗力が下がると日和見感染を起こしてしまうことがあります。

特に高齢者は口腔内常在菌が原因となって肺炎を起こすことがあります。

高齢者の寝たきりの方の軽い肺炎や腸炎などは多くが口の中の細菌が関係しているという事もわかりました。

常在菌と言っても身体の抵抗力が落ちている時などは血液の中で増殖して敗血症になる事さえあります。

糖尿病や歯周病も免疫不全を引き起こす病気ともいわれます…

糖尿病の人は歯周病が悪化しやすい傾向にあります。

高かった血糖値が良い方向に改善されると歯周病もあまり進行しないという事が



分かりました。

歯周病治療をしっかりとすることで、血糖値も安定してきたという結果もあります

そのことからお互いの影響を受けながら密接な関係にあることが分かります。

これには2つの病気が免疫不全を引き起こすことからであると言えます。

血糖値の高い状態は糖尿病です。

合併症として血行障害が起こります。

そのことから小さな血管が障害されると動脈硬化を引き起こします。

稀ではありますが、血行障害のため神経障害を引き起こすこともあります。

歯肉の小さな血管では血管障害を引き起こします…

歯肉の血管が障害されると歯肉上皮より下の組織をまもっているバリア層が断たれ血流が悪くなり歯の表面に付着している歯肉がはがれやすくなります。

歯周ポケットを形成し、炎症が拡大し歯周炎感染がはじまるのです。

糖尿病の人は、組織への酸素、栄養素の供給も良くないことから、組織障害もおこりやすく血流が悪いことで、免疫細胞も感染組織へ戻りにくくなり、歯周炎が進行、さらには悪化してしまう事があります。

血糖値が高い状態が長くなると、タンパク質の糖化がはじまります

それにより全身の抵抗力も低下させてしまいます。

このことから糖尿病の治療はしっかりと行う必要があるのです。

まだ残暑厳しい日が続きますが、しっかりと休息を取り、栄養を摂り、

リラックスした生活を楽しんでください。

歯科衛生士 榎木 誠子